

“心房細動”

心房は心室に血液を押し込む役割をしています、ラッシュ時の駅のホームで、電車に乗客を押し込む駅員のような役割です。したがって、心房と心室は交互に収縮をしています。この心房の収縮が乱れて、心房が部分ごとにバラバラに、さざ波のように速く小刻みに収縮するようになってしまった状態が心房細動です。心房細動では心房の全体としての収縮がなくなるため血液が心房内にどよむようになり、心房の壁に血栓ができやすくなります。この血栓がはがれて血流に乗って流された場合、心臓から一直線に血流を受けている脳に流れていくことが多く、脳の血管の中でも最も血流の多い血管に流れ込んでそれを閉塞するため、重大な脳塞栓症をひきおこしてしまいます。

したがって、心房細動での最重要課題はいかに血栓を予防するかです。

このために、血液を固まりにくい状態にする薬を使用しますが、血液を固まりにくくすることとは、必然的に脳出血などの出血の危険が増えるということです。

すなわち、血栓の予防と出血の回避とのバランスを考えて薬の強さを決める必要があり、きめ細かな配慮を必要とする領域です。